

県立高等学校改革基本計画（平成31年度～40年度）素案の概要

資料 2 - 1

本県高等学校教育をめぐる環境の変化

- 人口減少・少子化の進行
- 過疎化・高齢化の進行
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
- 本県の高等学校の小規模化
- 生徒の学習ニーズの多様化
- 震災等からの復興・再生

現在の県立高等学校改革計画の課題

生徒の学習ニーズの多様化、社会の変化や地域のニーズに対応した学校づくりの必要性、学校・学科の配置の検討、一定の集団規模の中でのかみ細かな指導が可能な学校規模の検討

新しい改革計画策定の必要性

福島県学校教育審議会（平成28年5月26日諮問・平成29年6月16日答申）
 諮問内容
 「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」

審議会からの答申を踏まえ

県立高等学校改革基本計画（平成31年度～40年度）

素案公表 平成29年11月24日
 計画策定 平成30年度はじめ

県立高等学校改革 前期実施計画

平成31年度～平成35年度

県立高等学校改革 後期実施計画

平成36年度～平成40年度

スケジュール

平成29年11月24日 素案公表

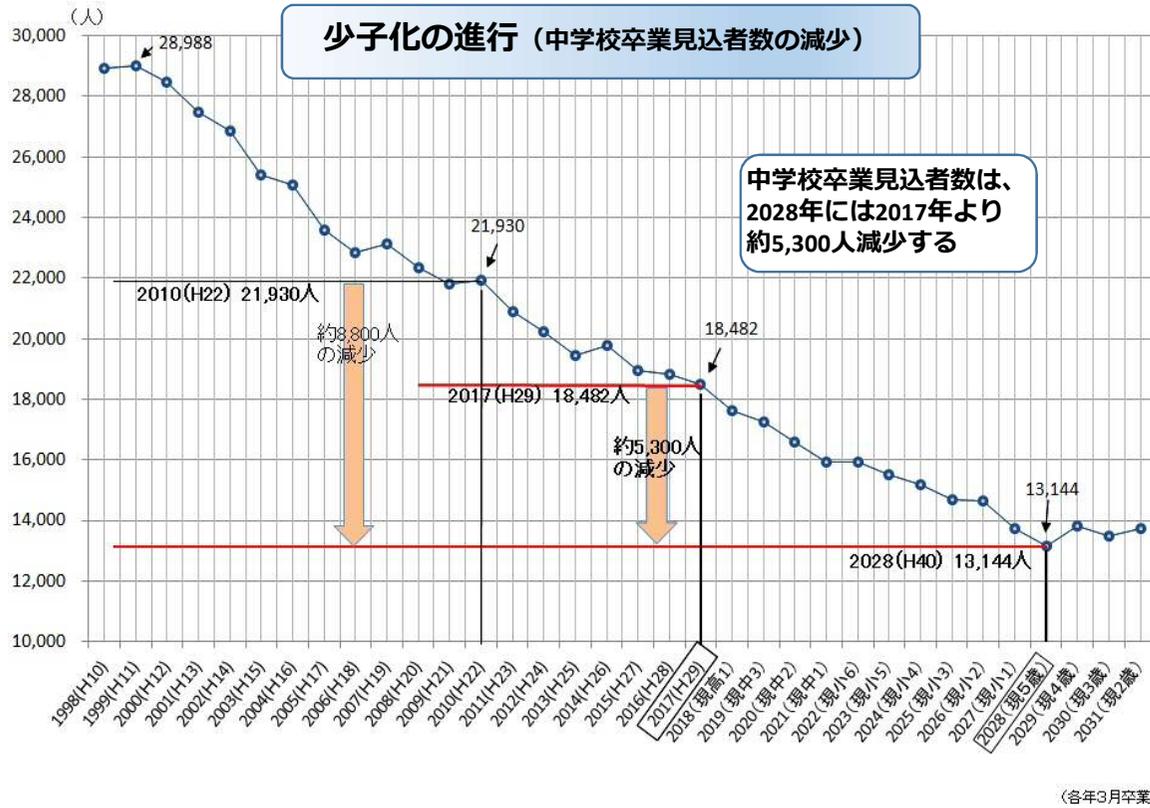
平成29年11月～平成30年2月上旬
パブリックコメント

平成30年1月
教育公聴会（県内7地区）

平成30年度 はじめ
県立高等学校改革基本計画
（平成31年度～40年度）の策定

その後
実施計画策定

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



中学校卒業見込者数は、
2028年には2017年より
約5,300人減少する

（各年3月卒業）

県立高等学校改革基本計画（素案）基本方針

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む 高等学校教育の推進

確かな学力の向上、豊かなこころの育成、体力の向上や健康増進、主体性・協働性の育成、地域の特色を生かした学校づくり

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

多様な学習機会の充実、中高一貫教育の推進、学びのセーフティネット、一人一人の夢を充実させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

◎ 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模

- 望ましい学校規模は1学年4～6学級
- 1学年3学級以下の高等学校は、都市部も含めて統合を推進

◎ 望ましい学校規模への再編整備の推進

- 同一市町内や隣接する市町にある複数校のうち、いずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合
- 都市部の高等学校においても地域バランス等を考慮し、再編整備を推進
- 再編整備による生徒負担を軽減する措置の検討

◎ 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置

- 「進学指導重点校」「職業教育拠点校」「生徒の学習ニーズに応じた特色ある高等学校」を各地区に配置
- 定時制・通信制高校・中高一貫教育校・全日制単位制高校等を全県的な視野から配置
- 双葉郡の休校となった5校の今後の在り方の検討

◎ 社会の変化に対応した学科の適切な配置

- 「普通科等・総合学科」と「職業系専門学科」の割合を2：1となるよう地区ごとに学科を適切に配置
- 教育内容の魅力化と学科の改編の検討

基本方針4

過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

◎ 過疎・中山間地域の学習機会の確保

- 地理的条件や通学状況を考慮し1学級規模の本校化や3学級以下の統合の例外的な実施
- 1学級規模の本校で、入学者が募集定員の1/2以下になるなど、教育の質の維持が著しく困難となる場合、存続について検討
- 新たな分校は設置せず、現在所在している分校は存続について検討

「県立高等学校改革に関する教育公聴会」意見概要

教育公聴会 1月10日～1月30日まで、県内7地区で開催。
基本計画素案について、県民（中・高校生、PTA関係者、中学校・高校の校長、傍聴者）の意見を伺う。

○ 魅力ある高校づくり（高校の特色化や再編）

統合による斬新な高校の新設。多学科高校や中高一貫教育校の設置。魅力ある学科への改編。進学指導や専門分野などへの特化、学校行事や社会体験の充実等の特色ある学校づくり。 など

○ きめ細かな指導の必要性（40人学級編制の見直し、少人数教育）

きめ細かな質の高い授業など、少人数教育の充実。
小中学校での30人学級を高校でも継続することが必要。
新しい学習指導要領に対応した学びや多様化する生徒の希望に対応した教員数の確保。 など

○ 地域と学校との関わり（地域との連携、地域社会への貢献、地域人材の育成）

地域の協働によるまちづくり、伝統芸能の継承、ボランティアなどの社会貢献活動。
地域の産業とコミュニティーを支える人材育成のための高校づくり。 など

○ 学校の存続（過疎・中山間地域の学習機会の確保、通学支援、運営主体の多様化）

過疎・中山間地域の高校、地域人材の育成に不可欠な職業系専門高校の存続。
市町村立や公設民営の高校も検討してはどうか。 など

○ 学び直しの機会確保

定時制高校の存続、不登校の中学生等の将来を考慮した教育環境整備。 など

○ その他（施設設備の充実、私立高校との協議、地域の声を踏まえた計画の策定 など）